

## 日射病・熱射病の季節がきました

昨年、オホーツク管内では日射病・熱射病が牛で21頭(うち死亡・廃用15頭、被害額5,319,000円)、発生しました。

表は、発生日を最高気温順に並べたものです(データは気象庁のHPより)。転帰(回復又は死亡・廃用)と牛の区分を示しています。

発生日	最高気温(°C)	転帰		区分	分娩
		回復頭数	死亡・廃用頭数		
8/8	32.7		1	成牛	
8/9	32.5		1	成牛	
7/31	31.9	1		成牛	
7/31	31.9	1		哺育	
8/4	31.0		1	成牛	
8/4	30.6		1	成牛	○
8/1	30.4		1	成牛	
8/14	30.2		1	成牛	○
8/26	30.0		1	成牛	○
7/24	29.9		1	成牛	○
8/1	29.8		1	成牛	○
8/2	29.8		1	成牛	
8/4	29.8	1		成牛	○
8/12	28.4		1	成牛	○
8/2	28.0		1	成牛	
8/9	28.0		1	成牛	○
6/30	27.8	1		哺育	
7/30	26.9		2	哺育	
8/11	24.0	1		哺育	
7/24	20.9	1		哺育	

成牛は飼料をルーメンで発酵する際に熱を産生するため、暑熱に弱い家畜です。

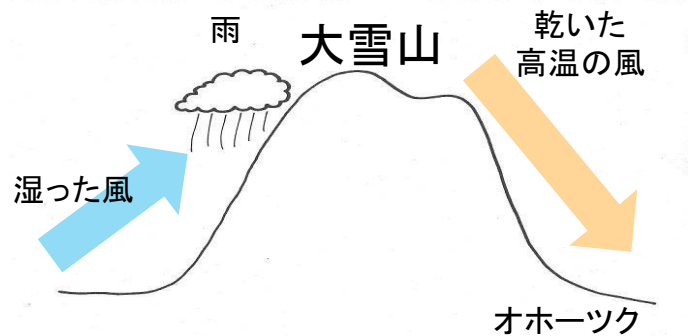
泌乳牛に適した気温は13~24°Cといわれており、それ以上になると乳量減少など大きな損失が生まれます。

左表の分娩の欄に○と示しているものは、乾乳後期~分娩後の母牛です。分娩ストレスに暑熱ストレスが加わると、牛は急激に衰弱します。

昨年の哺育牛での発生原因は、直射日光下での飼養、または風通しの悪いハッチ飼養でした。哺育牛は自らの意思で暑熱環境から逃れることが難しいため、こまめに観察してください。

オホーツク管内では**フェーン現象**が発生することがあります。

これは暖気が山を越えるときに乾燥し、吹き下ろすことで気温が急激に上昇する現象です。



涼しい時期に急に発生することもあります。天気予報をチェックし、発生にそなえましょう。

### 熱中症対策には

- 遮光ネット、屋根への散水など、畜舎内に熱を入れない
- トンネル換気、窓の開放など、風の流れを作る
- 放牧時は水源と日陰を確保し、早朝・夜間放牧を検討する
- 兆候を見つけたら、心臓周辺をさけて水をかけ、獣医師に相談する

人も無理せず、こまめに水分補給・休憩をしましょう

